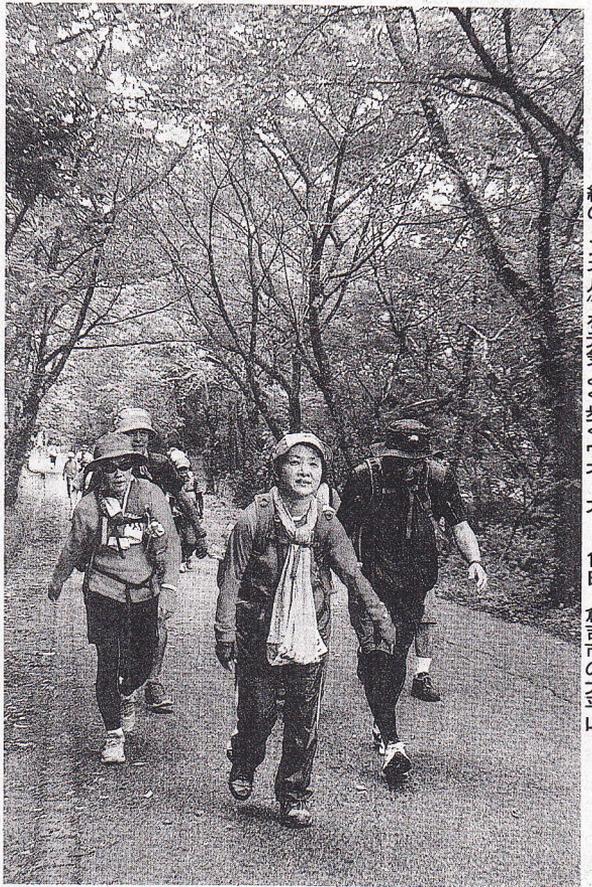


平成 24.6.17



緑のトンネルを元気に歩くウォーカー16日、倉吉市の大平山



風の薫り感じながら

倉吉市駄経寺町の倉吉パークスクエアを発着点に16日に開幕した「第12回SUN-INK未来ウォーク」では、全国各地から参加したウォーカーたちが、じめっとした梅雨空に負けず倉吉市と湯梨浜町を巡る5〜40キロのコースを元気に歩き、さわやかな汗を流した。

自然満喫さわやかに

40キロコースの出発式から歩き、存分に楽しんだ参加者を歓迎。長距離が「風の薫りを感じながら」、石田耕太郎倉吉市長が全国各地から集った参加者を歓迎。長距離が「風の薫りを感じながら」、石田耕太郎倉吉市長が全国各地から集った参加者を歓迎。

ウォーカーの姿が多く見られ、風光明媚な湯梨浜町の東郷池のほとりや今滝などを目指して出発した。あつて家族連れやグループが多く、会話を弾ませながら市街地をウォーキング。小鴨川河川敷では風を受けてすがすがしく感じられ、韓国ドラマ「アテナ：戦争の女神」ロケ地にもなった伝統的建造物群保存地区の町並みも

楽しみながらそれぞれのペースでゴールした。広島県廿日市市から夫婦そろって参加した佐伯誠さん(63)と成子さん(62)は「小鴨橋から大山が眺望できなかつたのが残念だったのが、町並みに歴史を感じ、緑もさわやかで気持ちよかったです。毎年、持ちよく歩けた」と話し、6回目の参加となった倉吉市岡の門脇賢太朗さん(73)、妻の寛

子さん(71)は「曇り空だったが河川敷の風が、緑もさわやかで気持ちよかったです。毎年、持ちよく歩けた」と話し、町並みや自然など地域資源の再発見を楽しんだ。

さらなる魅力向上を 倉吉JML加盟記念シンポ

「SUN-INK未来ウォーク」が日本マーチングリーグ(JML)に加盟したことを記念して、16日、倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心で開かれ、成長を遂げる未来ウォークの魅力向上などについて意見を交わした。



意見を交わすパネリスト=16日、倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心

倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心で開かれ、成長を遂げる未来ウォークの魅力向上などについて意見を交わした。日本ウォーキング協会の多田博副会長や鳥取県の法橋誠統轄官、県中部医師会の松田隆副会長ら5人がパネリストを務めた。日本のウォーキング運動の歩みや、ウォーキング立

「また会えてうれしく思う。両医師会がウォーキングで相互訪問することで、より友情が深まることを期待したい」とあいさつし、両会長が固い握手を交わした。原州市医師会のメンバー4人は16日に10キロを歩いた。

親善の輪の 広がり期待

鳥取県中部医師会(池田尊之会長)と韓国原州市医師会(趙善錫会長)との親善の輪が広がりを期待したい」と歓迎。趙会長は「また会えてうれしく思う。両医師会がウォーキングで相互訪問することで、より友情が深まることを期待したい」とあいさつし、両会長が固い握手を交わした。



あいつ後、固い握手を交わす池田会長(左)と趙会長(右)は、15日夜、倉吉市山根の倉吉シティホテルで、両医師会がウォーキングで相互訪問することで、より友情が深まることを期待したい」とあいさつし、両会長が固い握手を交わした。